

第2回 2009年8月出発 参加者 ●須田 庄さん、ホスト：浦項工科大学校

1. 応募したきっかけ

指導教員に勧められて、Summer Instituteに応募しました。ホストの教授と私の所属する研究室は長い間交流があります。

ホストの教授と私の指導教員を主催者として含む日韓の代数的組合せ論セミナーが3年前から始まり韓国との交流が盛んになり始めたこともあります。本プログラムを通じて韓国との交流が深まる良い機会だと思ったこと、海外での研究生活が自分にとって非常に良い経験になると思ったことが応募したきっかけです。

2. 事前準備

ホストの教授とは英語でコミュニケーションをとらなければならぬので、事前準備は韓国語ではなく英語を学んでいました。

研究では、日本にいる間に意図的にホストの教授と近い内容を研究していました。韓国滞在をきっかけとして、新しい結果を出そうと韓国滞在の間に行う研究を絞ってから韓国に向かいました。

3. 現地研修

POSTECHでは大学院生のセミナーに参加し、主にDistance-regular graphについて学びました。ちなみに、この Distance-regular graph（もしくは P-polynomial scheme）とは私の専門分野である代数的組合せ論で重要な概念のひとつで、これの類似としてもうひとつ重要な概念である Q-polynomial scheme が私の主な研究対象です。

これまでの研究の途中経過を8月20,21日に韓国科学技術院(KAIST)で開かれた2009

Combinatorics Workshopにて「On spherical dual width」のタイトルで発表を行いました。

ホストの教授は非常に活発な方で、学生と週に一度スカッシュすることを予定に入れていており、私もそれに参加させてもらいました。飲み会など学生との交流を非常に好む方で、韓国滞在中に誕生日を迎えた自分のために

パーティーを開いて下さり、何度も楽しい飲み会が開かれたのが印象深いです。

4. この研修を通じて得たもの

ホストの教授の下で研究する狙いのひとつは P-polynomial scheme で成り立つ結果の Q-polynomial scheme における類似を考察することです。Distance-regular graph のセミナーでは、Geometric distance-regular graph と呼ばれる概念の Q-polynomial scheme での類似を考えよ、という問題が与えされました。

韓国滞在中には必要最低限の考察しかできなかつたのですが、帰国後に所属する研究室の指導教官に助言をもらいながら新たな研究をすることができるようになったことが一番の収穫でした。

韓国の生活では特に不自由することはませんでした。自分が韓国国外から来た短期滞在者ということを抜きにしても、韓国の院生は非常に親切してくれました。

5. 参加する人へのアドバイス

韓国滞在に向けて更にしておけば良かったこととして、語学の勉強が挙げられます。

韓国語はソウルでの研修がほぼ初めての勉強の機会でした。ハングルを読むだけなら一週間もかかるないので、事前に学んでおけば良かったと思いました。

ホストの教授や院生とのコミュニケーションは英語で行わなければならなかったので、研究に関して十分な議論が出来る程度に英語を学んでおけばもっと実りある韓国滞在になったと思います。

